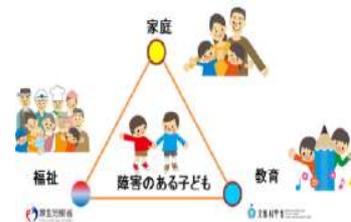


自分と大切な人の命を守るために<I>



新型コロナウイルス感染症対策

本田 由佳

4月7日(火)、新型コロナウイルス感染症対策本部による首都圏への緊急事態宣言が発令されました。緊急事態宣言が発令した状況のなか、医療現場の最前線で働く医師・看護師など医療従事者の方々をはじめ、保健・行政関係のすべての方々に、心から感謝するとともに敬意を表します。また、在宅勤務に切り替え、ご自宅でお仕事をしながら子育てもされている保護者の皆様は、慣れない生活の中で、本当にご苦労が多いことと拝察します。

例年、今の時期は、新学期がスタートし、子ども達は、新しい先生やお友達との出会いに胸をときめかせ、緊張しながらも希望に満ちた生活を送っている穏やかな時期です。しかし、現在、全世界では、新型コロナウイルスの感染が拡大し、世界のみならず、いつもとは違う4月を過ごしています。世界の死者は13万人(4/15、AFPBB News 集計)と推定され、100年に1度の歴史的危機との声もあります。スマートキッズ本部のある東京においても、新型肺炎感染者数は2,446名(4/15、東京都発表)を越え、オーバーシュート(患者の爆発的急増)・医療崩壊を防ぐための行動が、私たち一人一人に求められています。

今、感染拡大予防のために、日本人がしなくてはならないこと。それは、社会全体として、「3密(「密閉」「密集」「密接」)による人との接触を10割減らすこと」「在宅勤務を拡大し仕事による接触を5~6割と減らす努力を続けること」です。

そして、一人一人が、日常生活の中で実施しなくてはならない対策。それは「①手洗い・うがい」「②咳エチケット」「③顔から上を手で触らない(マスクをつける)」「④ソーシャルディスタンス(いまだけ、人との距離を2メートルとする)」「⑤3つの密を避けてゼロ密を目指す」「⑥外出による人との接触を確実に8割減らす」ことです。今だけ、「人との接触を避ける」ことは、感染拡大予防のために絶対に必要なことですが、とても辛いことでもありますね。でも、もしも、この行動を、日本人が一丸となってやらなかった場合、今後、日本はどうなってしまうのでしょうか。

4月15日、厚生労働省クラスター対策班の「8割おじさん」こと、西浦教授(北海道大学)によれば、目標の対策が行われなかったとき、日本国内での新型コロナウイルスの重篤患者数は、約85万人に跳ね上がり、死者は40万人以上となると試算・発表されました。今まで、このような数値を絶対に出さなかった優しい「8割おじさん」が、このような試算結果を発表したということは、今が、本当に重大な局面にあるということなのです。西浦教授は「今、みんなが、きちんと対策すれば、流行は止められる」「外出による人との接触を、8割減らしてください」と会見でお話されていました。

私たちは、自分と大切な人の命を守るため、その先にある明るい未来のために、個人でやるべき対策を「家族」「組織」「地域」というチーム単位で、協力しやり遂げることが必要なのです。

そして、「こんな不便で窮屈な生活は2020/5/6頃までなのかなあ…。」「一体いつまでなのだろう…。」と感じている方が多くいらっしゃると思いますので、有名な科学・医学者の予測を引用させていただきます。

皆様がよくご存知、ノーベル賞を受賞された iPS 細胞研究所所長の山中 伸弥先生は、「最低 1 年は覚悟しないとイケない。」とおっしゃっています。

(<https://www.covid19-yamanaka.com/cont4/14.html>)

また、東京大学医学部附属病院の特任助教として、臨床・研究・教育に携わっていらっしゃる前田 恵理子先生は、ご自身の Facebook で「新型コロナウイルスタイプの制御に必要な条件は、①人口の 7 から 8 割が感染し集団免疫を獲得するか、②ワクチンができ集団接種が進むかの 2 つしかない。ワクチン開発と安全性の検証、量産化で、みんなが、集団接種できるようになるまで、驚異的な速さでも 3~4 年はかかる」と発信されています。

(https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=852867555198442&id=100014256153736)

さらに 4/14、ハーバード大学の研究者らが発表したアメリカの科学誌「サイエンス」によれば「現在の医療の力では、感染の流行が 2022 年まで続く可能性がある」と結論付け、感染拡大を防ぐために、他人と距離を取るソーシャルディスタンスについて強制することが有効なものの、解除する度に反動で感染が広がる懸念があり、2022 年まで断続的に人間の行動を抑制する必要があると指摘・発表しています。(<https://www.afpbb.com/articles/-/3278652>)

新型コロナウイルスの最終的な結末は、誰にもわかりません。しかし、多くの科学者は、新型コロナウイルスとは、長い付き合いになると予測していることから、新型コロナウイルス と共に生きていくことを覚悟することも必要かもしれません。

……「きらっと」5 号へ続く。

本田由佳（ほんだ・ゆか）

慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員、順天堂大学医学部非常勤助教 健康科学者 博士（医学）

横浜市生まれ。1997 年、順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ科学科卒業後、株式会社タニタにて、女性やアスリートの研究、体組成計や睡眠計の開発を行った。在職中に、東京大学大学院医学系研究科母性看護学・助産学分野客員研究員として、妊娠・出産についても研究。現在は、産科婦人科館出張佐藤病院の研究コーディネーター、国立成育医療研究センター母性内科研究員として、国の政策研究などを行っている。